

## カノープスの季節 比較明でカノープス その2

天文台指導員の K 氏が、SiriusComp という画像処理ソフトを紹介してくれました。このソフトは、簡便に複数の画像ファイルから比較明合成を行うもので、静止画と同時に動画も生成してくれるという嬉しいオプションがついています。

早速に試用のための素材を作成しようと、カノープスの日周運動を撮影することにしました。といっても、地平線まで良く晴れた日にめぐりあうのはなかなかなくて、何回か挑戦するうちに結局 11 月にはいつてしまいました。

これまで、比較明合成をするときは、フォトショップでレイヤーを重ねる作業を行っていました。もちろん、この作業をちまちまと手動でやっていると手間が大変なので、レイヤーを重ねるアクションを作って、1枚ずつ半自動で画像を確認しながら重ねていく方法で行っていました。

この方法の良いところは、余分なものが写っているコマを微修正したり、カメラがブレた時の位置補正ができたりと、リカバリーが効くところです。だいたい 50 コマ単位でレイヤーを重ねてみて、飛行機とか一時的に邪魔な地上光などが映っているコマを修正していきます。

一方で、SiriusComp は、合成する画像を一括選択することで1発で比較明合成の写真ができあがるものの、具合の悪い部分の補正は基本的には(素材の段階で手を加えておかないと)できないため、最終的に出来上がった画像上でレタッチすることになります。

まあ、素材の画像の完成度が高ければそんなことを心配する必要はないのですが、そこはそれ、撮影時の根性の入れ具合が違いますからね(笑)

一方で、動画のほうは、フリーで手に入る適当な動画生成ソフトが無いこともあって、とても重宝に使用できそうです。でも、動画ということになると、比較明合成の必須条件である快晴の空よりも、少しは雲が流れていたり、地上の明かりが明滅したりするほうが映像として面白いため、静止画と同時生成という機能が果たして便利なのかどうか、微妙な感

じがします。

そんなことで、結局のところ今回もフォトショップのほうで比較明合成をして作品に仕上げました。

そして、撮影日がおうし座流星群の極大日に近かったせいででしょうか、運のよいことに流星が2つ、それも一方は、大火球とみられる明るい流星が写っていて、アクセントがある写真になりました。(でも、この火球はぜひ見たかったよ・・・)

さて、カノープスというと、中国では南極老人星と呼ばれていて、一度見ると長生きができるとされています。当地での南中高度は3度くらいで、靈験があらたかというほどの難物とはいえませんが、それでも1年のうちでカノープスが見られる日は限られています。

また、当地でのカノープスは、12月31日の大晦日の夜には24時頃に南中を迎えます。除夜の鐘が鳴る頃に快晴に恵まれてはるか地平線の先にカノープスを見ることができると、なにか縁起が良いような気分になってしまいます。初カノープスとでもいうのでしょうか。これは、初日の出がめでたいのと同じ気分ですね。



## メカが大好き Niftyserve のこと

1980年代半ばから2000年代半ばまでの約20年間、webによる情報交換が日常になるまでの間、パソコン通信が隆盛した時期がありました。いくつかの会社がサーバーを設置して、様々な双方向の情報交換の場を提供したのですが、その中でも富士通系Niftyserve内の「スペースフォーラム」は、天文関係の情報入手、意見交換やオフ会の実施など、全国規模で天文の趣味人が手をつなぐ大きな役割を果たしました。端的な例で言えば、新しく発見された彗星の軌道要素のように観測のために即時性が重要な情報も、パソコン通信以前は一部のコミュニティによるクローズな情報交換に頼ってきたのですから、このフォーラムによる情報発信が役割は絶大なものでありました。私自身も当時のフォーラムの会議室上で本名も知らない多くの方と知り合いになり、情報交換をさせていただいたクチです。

その後、高速な通信が整備され、Webによる情報入手があたりまえになっていくと、その役割は終焉を迎えることとなりましたが、あれから何年も経って、一部のメンバー方は天文雑誌やHPでご活躍されていることを眼にするものの、ほかの人たちはどうしているんだろうなあと思っていました。

## Books & CDs 飛鳥昔語り ほか／清原なつの

清原なつの氏の漫画を始めて読んだのは、1981年3月号の「りぼん」に掲載された「なだれのイエス」でした。「りぼん」というと主に小学校高学年から中学生の女子を対象とする漫画雑誌ですが、かなり深い内容の作品(というよりはマニアックというべきか)が、掲載されることも多く、侮れない月刊誌でした。くだんの「なだれのイエス」も、読んだときのショックは大きかったのですが、さすがに訳がわからなかった人が多かったのか、読者投票では最下位だったらしいです。

当時にどういう事情でこの雑誌を手にとったのか良く覚えていませんが、以後、清原なつの氏の作品が掲載されているりぼんを毎月買うという、成人男性としてどうなんだ的なことになってしまいました。

もともと同氏の作品の中にはSF的な要素を持ったものも多く、また作者はSF大会にも出席されていたことがあるようで、星屋さんの中にも潜在的なファンが多いようです。

## 編集雑記

非常に遺憾なことに9月号の発行が遅れてしまって、10月号が先行してしまいました。もちろん、9月号は作っているのですが、ネタの方が完成しなかった事情で発行遅延とあいなりました。無念だ・・・

あれから随分と月日が経ちましたが、去る4月から1年限りということで、Web上でNiftyserveが期間限定開設を行っています。早速にアクセスしてみると、スペースフォーラムの同窓会のページでは、たくさんのおなじみ名前が並んでおり、みなさんお元気にされていたんだなあと、感激しました。当時のフォーラムとしてはそれほど大きな規模ではなかったと思いますが、再開したフォーラム同窓会のページは数あるフォーラムの中でも最大の会員数となっているのは、このフォーラムを懐かしんでくれる方が多いのかなあと、思います。



ということで、年季の入った作家さんなので、今では文庫本でも清原氏の作品がたくさん発刊されています。最初の版と混在しているので作品を網羅するのは難しいですが、まず最初に手に取った本が作者の印象を決めてしまうリスクを犯して、ぜひ一度手にとってみてください。つまらなかったらごめんなさい。



遅れますが、追って発刊します。